

現地調査結果及び警戒避難基準に関する見解

・国土交通省では、7月13日までに TEC-FORCE 隊により、二次災害の発生が懸念されている梨子沢（大梨子沢及び小梨子沢）、大沢田沢、蛇抜沢について、地上調査を実施しました。

・その結果、溪流内に大規模な不安定土塊、土砂・流木の堆積、天然ダムは認められませんが、一部の河床に不安定な堆積土砂、側岸に侵食され残った土砂の存在が認められます。

・上記の結果は、7月11日に実施された国土技術政策総合研究所の専門家のヘリ調査による見解と一致するものです。

- ・大規模な土石流が発生した梨子沢（大梨子沢及び小梨子沢）では、
 - 1) 砂防堰堤が満砂しており、さらに、不安定な堆積土砂、側岸に侵食され残った土砂が他の溪流に比べ多く存在すること
 - 2) 溪流の施設（砂防堰堤・流路工等）の一部に損傷が見られることから二次災害防止のため、当面の間、住民の安全確保のため、通常より少ない降雨基準等により特別な警戒避難体制の整備が必要であると考えられます。

- ・避難基準の案（別紙参考）については、近隣の雨量観測所の観測値に基づき、
 - 7月9日に発生した土石流氾濫範囲
 - 避難開始の基準 時間雨量 10mm 又は連続雨量 50mm
 - 避難解除の基準 6時間連続無降雨
 - 土砂災害警戒区域等の被害発生する恐れの高い範囲
 - 避難開始の基準 大雨警報
 - 避難解除の基準 警報解除を避難開始の基準の案とし対処することを提案します。

近隣の雨量観測所（局）一覧

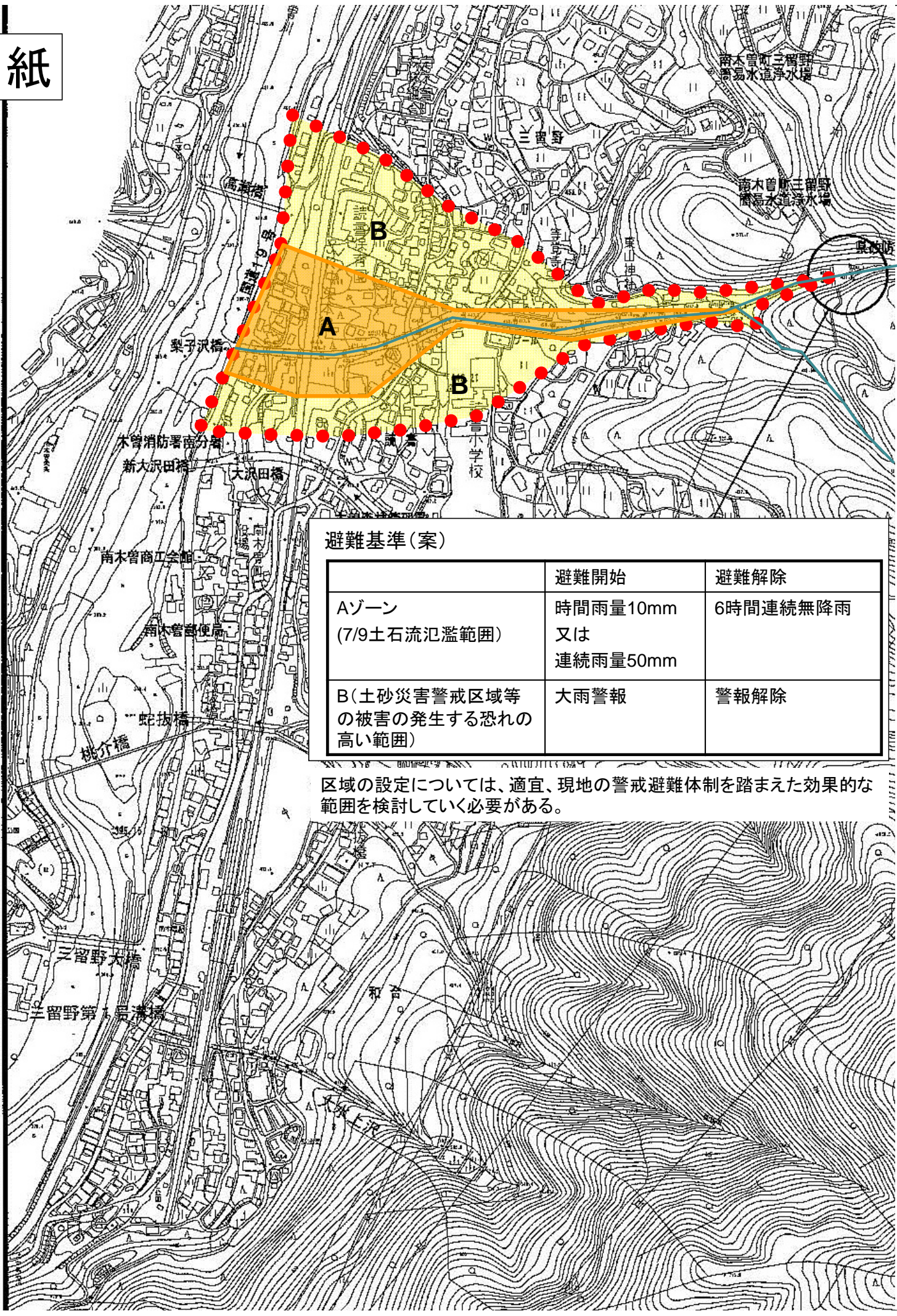
観測所	管轄	所在地
南木曾	気象庁	南木曾町読書
三留野	国土交通省	南木曾町読書 2937-45

※なお、今後の降雨の状況や砂防工事等の進捗により見直しを行う。

※区域の設定については、適宜、現地の警戒避難体制を踏まえた効果的な範囲を検討していく必要がある。

以上

別紙



避難基準(案)

	避難開始	避難解除
Aゾーン (7/9土石流氾濫範囲)	時間雨量10mm 又は 連続雨量50mm	6時間連続無降雨
B(土砂災害警戒区域等 の被害の発生する恐れの高 い範囲)	大雨警報	警報解除

区域の設定については、適宜、現地の警戒避難体制を踏まえた効果的な範囲を検討していく必要がある。

へり現地調査結果

平成 26 年 7 月 11 日

長野県南木曾町土石流災害調査（平成26年7月11日）所見等

※ 以下は上空からの目視による調査結果であるため、今後、詳細調査により変更する可能性がある。

1 日時 平成26年7月11日 13:30～15:30

2 参加者

- ・国土技術政策研究所 土砂災害研究部 砂防研究室 蒲原室長
- ・中部地方整備局河川部 河川計画課 林課長補佐

3 調査所見

【調査溪流】

8 溪流：梨子沢（大梨子沢・小梨子沢）、大沢田沢、大水上沢、蛇抜沢（和合）、北沢、神戸沢、戦沢

【大梨子沢（おおなしざわ）】

- ・南木曾岳山稜尾根付近の高所で崩壊が発生しており、崩壊を起点として土石流が流下した跡を確認した。流下経路について、上流は勾配が急で不明瞭な谷地形であり、表層土が剥ぎ取られ基岩が流下範囲に沿って露出している。下流域については、溪流内で幅を持ちながら流下したことが判り、流下時に相当の水深と所々で溪岸へのせり上がりをみせながら流下した状況が推定できる。
- ・流下範囲について、尾根に近い部分からかなりの湧水があり、急こう配部分では滝状に流下している。大規模な不安定土塊や流木の溜り、天然ダムなどは認められない。急こう配部以外では溪流内に巨石を含む石礫や土砂、侵食され残った土砂が残存している。
- ・崩壊は、南側の一ノ沢、二ノ沢から確認された範囲で少なくとも3箇所以上を起点に発生しており、土石流となって流下している。北側の二又沢、三ノ沢にも崩壊地がそれぞれ認められるが土石流には至っていない。

【小梨子沢（こなしざわ）】

- ・梨子沢同様に山稜尾根付近の高所で崩壊が発生しており、確認された範囲で2箇所の崩壊を起点として土石流が流下した跡を確認した。
- ・流下範囲について、尾根に近い部分からかなりの湧水があり、急こう配部分では滝状に流下している。大規模な不安定土塊や流木の溜り、天然ダムなどは認められない。急こう配部以外では溪流内に巨石を含む石礫や土砂、侵食され残った土砂が残存している。

【大沢田沢（おおさわださわ）】

- ・山稜尾根付近の高所で3つの崩壊が発生しているおり、それぞれ土石流化している。流下の過程で大規模な測岸・溪床の侵食は起こっていない。一部の土砂が下流の砂防堰堤に到達しているものの、砂防堰堤下流への流下は見られない。

【大水上沢（おおみずかみさわ）】

- ・土石流、斜面崩壊の発生は認められない。

【蛇抜沢（和合）（じゃぬけさわ（わごう））】

- ・左岸に小規模な斜面崩壊が2カ所発生しており、溪流に土砂が到達している。斜面崩壊による溪流の湛水は確認されなかった。

【北沢（きたさわ）】

- ・土石流、斜面崩壊の発生は認められない。

【神戸沢（ごうどさわ）】

- ・山稜尾根付近の高所で崩壊が発生し、土石流化している。2基の砂防堰堤が整備されているが、土石流は上流の鋼製透過型砂防堰堤までは到達していない。

【戦沢（せんさわ）】

- ・山稜尾根付近の高所で崩壊が発生し、土石流化している。砂防堰堤まで土石流は到達しているものの、満砂までは至っていない。



調査山域全景



梨子沢上流の崩壊地



梨子沢における土石流の流下域（上流部）



梨子沢における土石流の流下域（下流部）

梨子沢河床高比較図

＜速報版＞

H20年の測量データと土砂災害発生後（H26年7月12日に撮影）との河床高さの比較を行っています。

